

# 平成27年度 第4期 第9回「耕人塾」

[日 時] 平成27年10月17日(土) 18:30~20:30

[場 所] 石巻専修大学2号館 2階2205教室

[テーマ] 国際理解 パネルディスカッション「外国人から見た日本(石巻)」

[使用したテキスト]

- ・『耕人』H27 6.pdf (塾長から塾生へのメッセージ: 第6号)

## [活動内容詳細]

### 18:30 開会の挨拶及び趣旨説明(木村塾長)

耕人第6号 「日本人ノーベル賞受賞者二人に共通すること」  
『ゴミ拾いの輪広がる』

### 18:40 海外研修報告

塾生: 高橋 倫平 君 (好文館高3年)  
若生 智香 さん (稲井中3年)



9月1日から10日までの「セントルイス・石巻ともだちプログラム交流事業」に参加してそれぞれのホストファミリー宅にホームステイ。街のシンボルであるゲートウェイアーチ・野球観戦・公立・私立の高校視察・ボタニカルガーデンで開催された「ジャパニーズフェスティバル」では、日本食や日本文化を体験。大漁踊りを披露。

#### <学んだこと>

- ・「質問をしないのはその人の話を聞いていないのに等しい、失礼である。」という米国人の考え方。口に出してみることに重要性。質問は尋ねることだけではなく、確認する・具体的に教えてほしいときになど、引き出したいときでもいいことに気付かされた。
- ・西部開拓などの様々な歴史がつまっているゲートウェイアーチの歴史。

#### <石巻にどう貢献する>

- ・未来の糧になったと感じている私たち同様、行ってみたいと思う人を増やすこと。
- ・国際社会で、視野を広げた活動。

#### <一番印象的だったこと>

- ・震災のプレゼンテーションを、真剣に聞き入り興味・関心を示してくれるとともに他人である自分たちを家族のように心配し見守ってくれていること。
- ・セントルイス日本語教室の同世代の人との交流。

#### <大変だった経験>

- ・室内が寒いと感じるほど冷房が効いていること。米国人の頑丈な体。
- ・アメリカ人は見知らぬ人にも気軽に声をかけること。

<米国人に知ってほしい日本・石巻の文化・習慣>

- ・何事にも感謝の念を忘れない神仏習合の考え方
- ・「いただきます」「ごちそうさま」という、食べ物に感謝する日本の素晴らしい文化。

19:00 国際理解 パネルディスカッション

テーマ 「外国人から見た日本(石巻)」

<パネリスト>



リチャード・ハルバーシュタット氏  
石巻市復興まちづくり情報交流館中央館館長  
(前石巻専修大学人間学部准教授)



季 東勲(イ・ドンウン)氏  
石巻専修大学経営学部准教授



高橋リヤネット氏  
石巻市小学校外国語活動指導補助員



<パネラー>村岡 太  
石巻市教育委員会指導主事



パネラー村岡太先生は、「日本の食について」⇒「日本をどう見ているか」⇒「日本の子どもをどう思っているか」⇒「みんなからの質問」という順序で、面白い質問を問いかけ、石巻の方言も交えてとても楽しい雰囲気を作り出している。

#### <日本の食について>

- ・英国では、レトルトでも1000円とか外食が高く、今では食べものの量に唖然としてしまう。食のバランスがよくない。日本の食事は、一人分が程よく、手ごろな価格で、どこの食堂もおいしい。
- ・日本の料理は薄味で健康に良い。今では、韓国の食事が腹痛の原因に?石巻のお勧めはやはりお魚、さんまのお刺身は特においしい。
- ・フィリピンでは味噌汁はない。一年中夏で刺身などのなま物は食べられない。でも、果物はとってもおいしい。

#### <日本をどう見ているか>

- ・美しい自然がたくさんある。リアス式海岸・山形には羽黒山・京都も素晴らしい。他の国が汚いというわけではないが…。イギリスよりきれいです。でも、タバコとかのゴミが多い気がする。
- ・日本には四季を通じてたくさんのイベントがある。フィリピンでカトリック教、日本のお酒大好きです。
- ・「匠」という言葉があるように仕事をコツコツとこなす。私たちが社会に貢献することも大事だが、あわせて日本の文化を伝えていってほしい。漫画も日本の大事な文化の一部で、学べることもあります。韓国は、伝統文化が薄らいできている。

#### <日本の子どもをどう思っているか>

- ・日本の子どもを漢字一文字で表すと「静」。善し悪しはあるが、もう少し活発になってほしい。小学校までは元気。でも大きくなるにつれて、自分の意見を口に出さなくなる。間違いは自分のためになることもあると考えてほしい。
- ・すばらしいけれど大きくなっていくと「あなたたちそれでいいの?」と思う時がある。みんなに漢字一文字をつけると「叶」。自分とちょっと違った人がいても、「気にするな!」。相手の立場になって考える。夢もない人が他人の夢をからかうのは馬鹿げている。達成させるのは、「辛(つらい)」⇒「幸(しやわせ)」。何度も立ち上がることは、辛いことです。一画足します。それは誰かを助ける手です。思いやりを持ってください。夢を口に出して言えるようにしてください。どんな人であれ、平等なのは、24時間あるということ。
- ・日本の子どもを漢字一文字ではなく英語で表現すると「Lucky」。フィリピンは、頭がよくてもお金がないと大学に入れない。一日、500円で父も母も働く。子どもは一人とは限らないし、学校にお弁当を持っていかなくてはならない。日本は牛乳も飲める。フィリピンは金持ちしか飲めない。プールの時間もある。お母さんが、子どもに、「お願いだから、学校に行って!」。フィリピンでは、教科書がない。学校に行かないからバカじゃない。お金がないから行かないだけ。6年生で小学校卒業できるけれど、フィリピンは頭がよくないと卒業できない。日本の子どもは甘いかもしれない。

## 20:05 班別活動

10月の実践活動の振り返り

## 20:25 次回予告